小学校児童英語研究会冬の講座に参加して

大野小学校　佐々木　朗

はじめに

私は１０年程前まで８年間中学校の英語教師をしていました。英語は子どもの頃から大好きな教科でしたが、まさか英語の教員をやることになろうとは思ってもみませんでした。新卒で日高の小学校に勤め、渡島への希望を出した時、「中学校でもいいか。」と尋ねられ、渡島に帰りたい一心で「はい、やってみたいです。」と答えたのです。

初めての中学校教員。生徒たちはすごく大きく見えました。ちょっと怖かったというのも正直な気持ちです。でも、体当たりで、子どもたちに英語を教えてきました。隣の中学校の英語の先生は ALT と何か言い争っているのを聞いても私はチンプンカンプン、私が職員室で ALT と英語で打ち合わせをしていると、「佐々木先生の英語ってわかりやすいね。」とほめられても、嬉しいような、「それ、どういう意味さ？」という気持ちも半分。中学校の英語教員の採用試験は、何を書いているのかよくわからない。そんな程度の英語力ですが、英語の力と英語を指導する力へ別と自分に言い聞かせて、指導をしてきました。

今振り返ると、小学校と中学校の両方の校種を経験できることは、教員にとってとてもいいことだと感じ、周りの先生方にも勧めたりしています。

そんなわけで、８年間の中学校教員の後、再び小学校教員に戻りました。もちろん小学校では英語は必修の教科ではありませんし、やらなければならないものでもありません。でも、子どもたちに英語の楽しさを体感させていくということは、とても大切なことであり、これからの国際社会においても、言葉が異なっても、文化が異なっても、目の色が異なっても、みんな人間であり、心は通じるという国際理解の基本は是非、小学校のうちにと、私は思っています。

そのようなことがあって、私は現在小学校の教員をしながら、子どもたちに英語の楽しさを伝え、学校教育の中で、小学校英語をいかに進めていくか興味を持ち、時間があれば顔を出しているわけです。

私と英語の関わり

私と英語が関わるようになったのは、３人の師との出会いがあったからです。

一人目は、高月先生。現在函館大学で教鞭をとられています。小学校６年生の時、駒場小学校近くで英語塾の看板を見かけて、「よし英語を勉強しよう。」と思って入ったのが高月英語塾でした。大先生が亡くなってからは、ずっと高校３年生まで７年間お世話になりました。高校に入ってからは優秀な生徒が増えてきて私はビリッケツ状態でしたが、楽しく、そして力をつけてくれたのは、高月先生でした。

二人目は、荒木先生。私の中学校２年生、３年生の時の学級担任でもあり、英語の先生でもありました。厳しくもあり、優しくもあり、私を英語好きにしてくれ、よく私

のことをかわいがってくれました。学校の先生になろうかなあと思ったのは荒木先生のおかげでした。

三人目は、田中先生。私の高校３年間のリーダーの先生でした。授業はとても厳しかったです。予習をしてこなくて当たって答えられないと手厳しくしかられました。そして、時折話してくれる海外の話を聞いて、英語の大切さを知りました。高校の教鞭を終えられてからも、研究活動や、教育大学での指導などに力を発揮されています。私は田中先生に英語の実力をつけてもらったこと、そして、生涯に渡って、勉強していくことの大切さを教わりました。

私は、このように自分を鍛えてくれた恩師があってこそ、今の自分があると思います。師を持てたということは幸せなことです。

この小学校英語の研究会も田中先生の奥様が顧問をなさっているという縁もあり、参加させていただいています。

大野小学校の小学校英語の状況

大野小学校は全校４６０名程。学年２クラスないし３クラスで、特別支援学級を含めて１８学級の旧大野地区の中心校です。小学校英語の授業＝ALT を使った授業という所は、無理もないところですが、その実践については、学年の判断に委ねられています。したがって、多く ALT が入る学年で年間６回位、少ない学年では全くなしという状況です。

先生方の判断でやるやらないというよりも、やはり学校体制として小学校英語にどう取り組むかということが大切だと思います。私は教務担当なので、来年度の総合的な学習の時間には、時間は少なくても、全学年、子どもたちが ALT と触れ合う機会を作ることができたらなあと思っています。

私の学年でも、小さな実践ができました。

私は現在小学校一年生を受け持っています。１年生に何を指導するか、何を目標にするか、自分自身まだ明確にすることはできませんが、ALT とゲームをしたり、歌を歌ったり、ほんの片言の英語を話したり、と楽しい時間をすごすことができることが一年生（低学年）の目標としていいと思います。

今年度は２回の実践を行いました。反省すべきこともあったので振り返ってみます。

１回目は、全くの ALT 任せにしていました。私は打ち合わせに出なくて、ALT が全部考えてくれるということで、お任せ状態にして、当日を迎えました。子どもたちにとっては、すてきな ALT のお姉さんが来たということで、大喜びでした。でも、私は見ていて、ALT の表情が冴えていないようでした。その予想は当たったようで、次の授業は、学年一斉から学級ごとにしてほしいという連絡をもらいました。それは、どうしてか。小学校１年生にとって、ALT の

話す片言英語、片言日本語が理解できなかったのです。ですから、子どもたちは楽しい表情を見せて動きはあるけれど、子どもたち自身何をやっているのかよく見えていない。また ALT にとっても、授業の収拾がうまくつけられない状態のようでした。

ALT 担当の方から、私が相談を受けた時、「まったくのお任せ状態だったら、学校としても無責任だなあ。」と思い、子どもたちの実態を知っている学級担任が、そして、いくらかでも英語教員としてやってきて、いくつかの研修会に出て、多少なりともどんなことをやっているかわかる私が、不肖ながら、指導案を立ててみることにしました。ALT にメールで送ったところ、その通りやっていただけるということで、当日を迎えました。ALT はあまり日本語が話せないということで、昔取った杵柄で英語、日本語を使いながら、私が子どもたちにわかるようにうまく橋渡しをしてあげました。いくら英語のシャワーと言えども、子どもたちが何をやるのかわからないまま進めるのでは、意味がないからです。

あいさつ、ABC の歌やビンゴゲームで楽しみました。授業後、ALT にお話を聞いたらニコッとして、「うまくいったね。」と話してくださいました。私もとっても嬉しかったです。

以下は ALT に送った指導案です。へんな英語があるかもしれませんが。

1.Greeting

A:Hello.

B:Hello.

A:What is your name ?

B:My name is Akira Sasaki.What is your name?

A:My name is Catherin.Nice to meet you.

B:Nice to meet you.

First,practice with ALT and all students

Second,practice students each other

Third,practice with student and student

Last,good pronounced student greets in front of all students.

2.Song

Alphabet Song

One little indians

3.Animal Game

Prepare following animal card for presentation

and bingo card for students

cat dog lion horse pig cow monkey rabbit elephant

mouse tiger sheep bird

First learn about animals name in English

Second ALT show students a card and students say it in English

Third student write animals name in Japanese in bingo card 3*3

Fourth ALT says a name,and students check.

4.Students say how they feel the class,and JTE put it in English.

小学校英語研究会に参加して

前置きがすっかり長くなってしまいました。冬休みの小学校英語の研修会とても楽しかったです。そして、勉強になりました。私が一番感心したことは、若い先生方がほとんどだったことです。最近の若い先生はともすれば、いずれのサークルにも所属しないで、わが道を行くという所に陥りがちですが、職場を離れて、自分の専門性を磨くという意欲に、私も元気を感じました。

さて、第２回「どうする小学校英語函館」研修会では、近畿大学准教授田邉義隆先生を迎えて、実際の授業の分析、そして、函館児童英語研究会の先生方から、教室で使える指導について、たくさん紹介していただきました。

１コマめ
ビデオによる研究授業と研究協議
「子どもがいきいきと英語を使う授業－１時間の授業の組み立て方」

田邉先生は、函館地区の高等学校で教鞭を取られ、その後近畿大学にお勤めになってからも、現場との接点を持ち、小学校にＧＴ（guest teacher）として入り、研究を進めている。

研修会では、東大阪市立森河内小学校における実践について、紹介をいただいた。

６年生の授業のビデオを見ながら、説明がなされた。

女性の学級担任の先生と田辺先生のティームティーチングであったが、すごいと思ったのは、学級担任の先生は、特別に英語がペラペラな先生ではなかったということです。

小学校で英語の授業をやる時に、「私、英語できないから、授業なんてできない。」という多くの先生が悩みをかかえる中で、この実践は素晴らしいと思った。ただ、この先生、研究授業では、たくさんの class room English を使っておられた。相当の努力をされてここまで来たであろうということは申し添えておきたい。

授業の内容は、６年生ということもあり「将来何になりたいか。」What do you want to be?というものであった。Yes No の受け答えから始まり、次に特別疑問文 what を使っての練習と続いた。

公開研究会ということで、１００名以上の参観者がいたということもあって、インタビューのコーナーでは、周りの先生方にインタビューということで、大いに漏り上がった。

話の中で学んだことは、今全国の小学校で何らかの形で英語の授業を行っている割合は、93.4%ということである。たった一

回でも年間 35 週きっちりやっても１校ということで、かなり怪しい数値ではあるとのことであるが。

それとコミュニケーションの基本ということで、「意味のない疑問文は、日常はしないものである。」ということである。鉛筆を持って、「これなあに？」という質問は日常生活ではすることはない。わからないから、聞くのである。

「英語の楽しさとは。」子どもたちは英語の授業を楽しいという。その楽しさということをもう少し掘り下げてみる必要があるということである。単に歌やゲームが楽しいのか。英語が楽しいのかということもある。低学年では、「体を使った」楽しさ。中学年では、「頭を使った」楽しさ。そして高学年では、「心を使った」楽しさを追求していかなければならない。子どもは常に知的興奮を求める。常に楽しさを味わわせるためには、めずらしいことをする英語の授業から、脱却し、学年の発達段階に応じた楽しさを追求していかなければならない。

以下、田邉先生のまとめから、

「言葉の教育」になっているかを考える。教師が「言葉の教育」として英語の授業を捉えるだけで、教材や指導法は変わってくる。活動・単元構成を振り返り。「言語・コミュニケーションとしての活動になっているか」という基本に照らし合わせれば、大声で挨拶をさせることや「アイ・コンタクトを取って」と指示しなければ目を合わせ必要性がない活動の不自然さに気づくはずである。「言葉の教育」を意識するだけで授業はかわる。大切なのは、質の良い英語活動の体験をたくさん与えることである。

All English と母語の使用

・All English は、可能な限り英語でインプットを与えようと考えると有効。

・母語の使用の利点

・教員―生徒間の心理的関係の維持

・発話不理解による心的圧迫の解消

・授業運営の効率化 etc

・目的と使用法が明確な場合は、限定された母語の使用は有効

・教員の英語を日本語訳するのは問題あり。

・生徒が教員の日本語訳に頼る習慣を身につけてしまう。

・外国語の理解には日本語訳が不可欠という誤った認識をしてしまう。

「知る」よりも「気づく・考える指導」が大切である。

「国際理解教育」から「国際教育」へ？

・「知る」だけの「知識としての学び」に終わらずに、子どもたちが自ら「気づく」「考える」授業実践の必要性。

「ドリル活動」と「コミュニケーション活動」

・ドリル活動：文構造の定着を促す反復練習（＝学習活動）

・機械的に繰り返す練習だけでなく、楽しみながら目標文に触れられる工夫も必要。

・まずは、「聞くドリル活動」を通して十

分な音声インプットを行った後、「発話のドリル活動」に移行したい。

・コミュニケーション活動：情報授受、自己表現など目的をもった運用練習（＝言語活動）

・すでに知っていることを聞きあうのではなく、「インフォメーション・ギャップ」を作り、新しい情報が起こる活動

・使用する語彙、伝達形式、伝達内容を、児童自らが「選択」できる活動

「英語活動は楽しい」の分析

・楽しい授業を構成する３つの要素

・身近な話題

・楽しい活動

・自己表現の機会

・授業者として、子どもたちの感想として出た「楽しかった」はどの種のものか、見極める視点が必要。

例１）カードゲーム

例２）Roman Numbers

例３）奈良公園で外国人に直撃インタビュー

授業で使える活動

研究会のメンバーによる授業で使える活動について、紹介があった。

１．　My Favorite Color

Orange,blue,green and pink.

Brown yellow,black and red.

I like yellow.I like pink.

What's your favorite color?

色のグループに分かれて歌う。

２．　Action Colors

1. Red,red clap your hands.
   Blue,blue,clap your hands.
   Everybody,clap your hands.

色や、アクションを変える。

３．BINGO の歌

There was a farmer had a dog and Bingo was his name o,

B-I-N-G-O B-I-N-G-O B-I-N-G-O

And Bingo was his name o!

farmer dog Bingo のところを変えて歌う。

３．　Clap your hands with alphabet

色のついたアルファベットのカードを黒板に貼り、アルファベットを言う。次の段階として、指定した色の所は発音せずに、手をたたく。

４．　インタビューゲーム

My name is Akira.

I'm　from China.
お互い自己紹介して、じゃんけんをして、勝った人は負けた人から自分の紙にサインをしてもらう。ジャンケンは英語では、「rock,scissors,paper,one,two,three」つまり、岩、はさみ、紙ということである。

最後に

小学校における英語教育は、時代のニーズであり、次期の学習指導要領においても、必修化される可能性も高くなっている。したがって、小学校における英語については、少しずつ準備していく必要がある。

田邉先生の話にもあったが、研究指定を受けた学校においても、全員が共通理解して研究を推進するのは難しいという現実がある。言葉は悪いが、「逃げられるだけ、逃げる」というところもありそうである。トップダウンで学校長の強いリーダーシップが必要という現実もある。

そのような中で、志を持つ者、特に若い先生が、中心になって活動を進めているということはすばらしいことである。私も、英語教育をかじったはしくれとして、これからも研究活動に携わっていくとともに、学校内の指導計画の見直しをし、自らも実践していくよう努力していきたい。

函館児童英語研究会講習会に参加して

～大野～

小学校での英語指導のこつ学ぶ

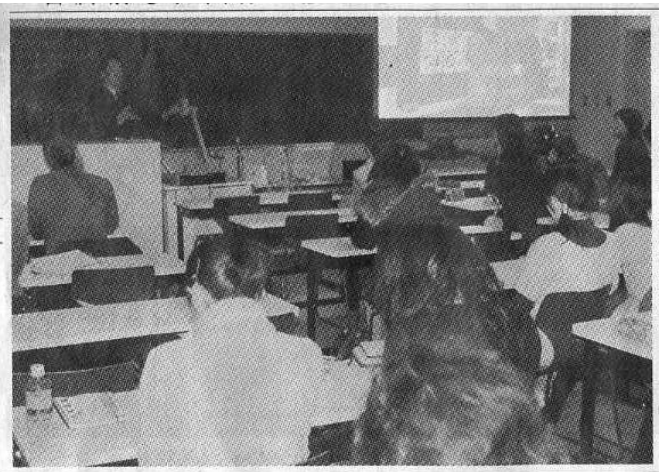
研修会に教諭ら37人

函館児童英語研究会（丸山悦子会長）の第2回「どうする小学校英語」研修会が6日、函館大学で開かれた。小学校での英語活動の本格導入に向け、近畿大の田辺義隆準教授が講義。参加者は実際に小学校で行われた授業の映像を見ながら、英語指導のこつを学んだ。

同会は、函大で行われている小学校英語指導者認定講習会の修了者などで構成。研修会には小学校教諭ら37人が参加した。

田辺準教授は、授業で学ぶ表現が会話のなかでどのような役割を果たすかを明確にする教え方を提案。「What do you want to be?（あなたは将来何になりたいですか）」を理解させるため、「わたしは歌手になりたい」「あなたは歌手になりたいのですか」といったやりとりを経るとスムーズに進むことを示した。

（小泉まや）



小学校教諭らが参加した研修会

第2246回　ナンバーズ
（1月7日抽せん）

【ナンバーズ3】	9 6 5	
ストレート	115,000円	(127)
ボックス	19,100円	(689)
セット ストレート	67,000円	(221)
セット ボックス	9,500円	(1385)
ミニ	11,500円	(519)
【ナンバーズ4】	2 1 7 8	
ストレート	573,600円	(90)

STOP! ザ・事故
交通事故死亡者数
3人
（前年比：+3人）
事故発生件数
今年の道警函
管内
（1
企画・制作／函館
南北海道交通
※協賛
この企画